



議長のお許しをいただきましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

先ずは、今般の九州地方における豪雨災害により犠牲になられた方々へのお悔やみと、被害に遭われた皆さんに対してお見舞いを申し上げます。災害列島に住む私たちは、何を備え、まちづくりの柱はどうあるべきかを、改めて自問自答する日々となりました。

さて、私はこの度の町長選挙におきまして、町民の皆様から深いご理解と力強いご支援を頂き、無投票という形ではありますが4期目の当選を果たさせていただきました。身に余る光栄でありますとともに、寄せられた熱い期待とその使命の重大さに身の引き締まる思いであり、必ずや北海道胆振東部震災からの一刻も早い復旧・復興を果たし、コロナ禍の影響を最小限にすべく、細心の注意を心掛けながらも積極的な行財政運営に努めてまいりたいと決意を新たにしているところであります。

これまでの3期12年間は、「みんなの底力で地域再生」を目指した1期目、「豊かな自然と輝く田園を次世代へ引き継ぐ」をテーマとして挑んだ2期目、3期目には田園回帰1%戦略を基本に「みんなが輝き、支持され選択されるまち、住み続けたいまち」を目指してまいりました。それぞれの任期において大切にしたい視点と政策分野を整理し、一連となる「あつま再生プロジェクト」の実践を通じて、町職員とともに目標達成のために努力してまいりました。おかげをもちまして、社会基盤の整備、社会福祉の増進、産業振興、教育振興、移住定住、子育て支援などの各部分において一定の成果が得られ、また、課題解決に至ったものも多いと考えております。高丘ゴルフ場跡地の件や統合簡易水道事業、厚幌ダム建設、道営ほ場整備、勇払東部地区国営かんがい排水事業など難題や宿願も大きく前進し、平成30年7月には全国において社会問題化している人口減少から人口増加の局面に転じてもおりました。これらはひとえに、議会の皆様や町民の皆様のご理解とご協力によるものであり、改めて感謝申し上げます。

しかしながら、平成30年9月に厚真町を含む胆振東部3町に甚大な被害をもたらした北海道胆振東部地震により、すべての状況は一変いたしました。上皇、上皇后両陛下にその窮状を深く案じていただく程でありましたが、発災当初からご尽力をいただいた、国や北海道、全道の市町村や東北各県の行政機関、警察や消防、自衛隊の捜索機関、大勢のボランティアを始め物心両面で支えていただいた全国の皆様には、改めて心から感謝申し上げます。

既に、発災から1年と10か月が過ぎました。この間における関係機関の懸命なご努力により、復旧作業は目に見えて進んでおり、また、大きな犠牲を払いながらも、日常を取り戻すべく生業の復旧に懸命に取り組んでいる農業者の皆様にも随分と励まされましたが、それでも被災者の心の傷を癒す時間と財政支援、技術支援はまだまだ必要です。加えて、コロナ禍の今後における各産業への影響は計り知れないものがありますが、厚真町民の総